

は し が き

2次試験合格の秘訣は、問題の本質を理解することである。

「コーポレート・ファイナンスと企業分析」の出題分野は、(1)コーポレート・ファイナンス、(2)財務会計をめぐる諸問題及び(3)企業分析に係る諸問題の3分野に大別されている。

特に、「コーポレート・ファイナンス」についての計算問題は、毎年必ず2問～3問出題されている。計算問題を解くことができれば、合格に急接近する。2次レベルに合格するにはこの「コーポレート・ファイナンス」分野をマスターすることが「必要・十分条件」となる。出題の中心は企業価値の評価（フリー・キャッシュフロー割引モデル、経済付加価値（EVA）割引モデル）、正味現在価値（NPV）による投資意思決定（リアル・オプションを含む）、オプションを利用した企業価値の複製、さらに、割引率としての加重平均資本コストの問題（自己資本コスト、負債コスト、ベータ値）である。

「財務会計の諸問題」については、国際財務報告基準（IFRS）へのコンバージェンス（統一）への論点についての基礎知識（例えば、包括利益、連結会計、収益認識、公正価値評価、リース、負債の認識、退職給付会計など）を中心に出题される。内容的にはそれほど難しくなく、本書の基礎知識程度でよい。

「企業分析の諸問題」では、事業リスク・財務リスクのリスク分析を中心とし、収益性の分析、1株当たりの利益（EPS、潜在株式調整後EPS、希薄化調整後EPS）などである。

以上の内容について、「本質」を理解するように学習すれば絶対に合格する。

本書は、以上のことを踏まえて、受験生の学習負担を軽減するよう「試験に出る範囲」を中心に絞り込み、かつ、「本質が理解できる」ことをコンセプトにした合格直結のテキストである。

本書と姉妹書である「過去問解説（註日本証券アナリスト協会掲載許諾）」との併用でより理解が深まります。

最後に、拙書が受験者の合格の一助になれば幸いです。